

地方部への移住者にみる田舎暮らしの魅力と移住支援の取り組み ～鹿児島県垂水市を事例として～

八千代エンジニアリング株式会社 正会員○神永 希
 国土技術政策総合研究所 正会員 大橋幸子
 国土技術政策総合研究所 正会員 湯原麻子
 八千代エンジニアリング株式会社 正会員 小林美咲

1. はじめに

国民の価値観の多様化に伴い、多様な働き方、住まい方が可能な社会が求められている。一方、少子高齢化と人口減少が進展する地方部では、住環境の充実により定住を促そうとする施策の展開がみられる。本研究では、地方部への移住行動に着目し、鹿児島県垂水市に実際に移住された方々へのインタビューを通じて、移住行動に対する満足度等について調査を行った。本稿では、調査結果のうち、移住に関する特徴的な意見等に関するとりまとめと考察を行う。

2. 対象地域の概要

(1) 垂水市の地勢

平均気温が 20℃、年間 200 日以上が晴れの天候になるなど、温暖で暮らしやすい気候である。他都市への移動は、バス利用で、鹿屋市から約 45 分、志布志市から約 110 分、鹿児島空港から約 90 分、霧島市から約 60 分。垂水フェリー利用で、鹿児島市から約 35 分の位置にある。

(2) 垂水市の社会特性

市の人口は、平成 22 年時点で 17,600 人であり、昭和 35 年(32,721 人)以降、減少傾向が続いている。また、高齢化率(65 歳以上人口の割合)は、平成 17 年で 33.3%であり、鹿児島県内でも比較的高い値となっている(鹿児島県全体では 24.8%) (図 2)。

就業者数は、第一次・第二次産業就業者数が減少傾向にあるが、第三次産業従業者数は増加傾向にある。



図 1 垂水市の位置

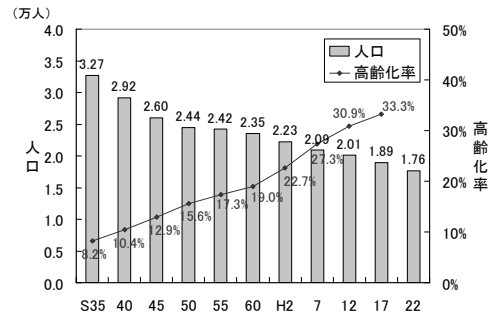


図 2 人口と高齢化率の推移

3. 対象地域における移住の取組みと経緯

垂水市の移住支援・定住促進の取り組みは、平成 8 年から、市が中心になって始められた。

これまでの取り組みを、表 1 に示す。取り組みのうち、空き家バンク制度とその HP 掲載は、他地域に先行した取り組みであった。また、移住支援の取り組みとは別であるが、子育て支援として、定住促進住宅の家賃減額(移住に限らない)、子どもの医療費の助成など行っており、これらは若い世代の移住者支援にもつながっている。

表 1 移住支援・定住促進に関する取組みの概要

取り組み	時期	内容
空き家バンク制度	平成 17 年～	市の空き家の有効活用を通して、垂水市民と都市住民の交流拡大及び定住促進による地域の活性化を図っている。ホームページに情報を掲載。
ホームページの設置	平成 17 年～	「垂水市定住促進情報『たるみず暮らし』」において、物件情報、求人情報、移住者の声、移住ガイドブック等を掲載。
定住アドバイザー設置	平成 17 年～	垂水市への定住等を支援するため、既に市外から垂水市に定住している者を任命し、垂水市の生活情報や習慣、その他利用登録者が必要とする情報等を提供、助言、相談に応じている。
雇用促進住宅を購入	平成 19 年～	平成 19 年に市が購入し、定住促進住宅として活用している。
宅地分譲事業	平成 8 年～	温泉付きの宅地分譲を実施している。
定住体験モデルツアー	平成 21 年～	市外在住で、垂水市への移住を検討している方を対象に、垂水市の生活や産業、歴史や文化に触れてもらう。
定住奨励金	平成 8 年～ 平成 15 年	市土地開発公社が所有する住宅団地の土地を取得した方を対象に、住宅建築(購入)助成金(100 万円)及び定住奨励金(20 万円/人)を交付。

垂水市 HP、垂水市役所ヒアリングより

キーワード：地方移住、地域資源、生活利便性、定住促進

連絡先：〒161-8575 東京都新宿区西落合 2-18-12 八千代エンジニアリング株式会社 TEL 03-5906-0126

4. 移住者へのインタビュー

(1) インタビュー調査の実施

垂水市役所の協力により、実際に移住した方にインタビューを行った。調査時期は、平成22年12月である。本調査の協力者は、7名で、年齢は30代1名、50代4名、70代2名である。うち、3組が夫妻である。

(2) インタビューでの特徴的な意見

インタビューにおける調査項目は表2のとおりである。そのうち、「移住の検討経緯」、「移住後に感じた垂水市の長所」等について、それぞれの主な意見等を抽出・整理した。結果を表3に示す。

表2 調査項目

属性	性別、年齢、職業、移住時期、移住時の年齢、居住地（移住前後）、自動車の運転の可否
移住関連	・移住の理由（目的・きっかけ） ・移住先（現在地）の魅力 ・移住先候補として検討した他地域の有無
生活環境	・生活を営む上で重要だと考えている価値観（移住検討前、検討中、移住後） ・生活環境として必須と考える施設（移住前・現在） ・施設までのアクセスの許容時間

表3 移住者インタビューにおける特徴的な意見

分類	主な意見 ■：全体的な傾向 ・：特徴的な意見
移住の検討経緯	■移住先を探る中で、自然条件等を理由に垂水市を考えたとする回答が多い ・暖かい場所での生活に長い間あこがれを持っており、垂水市への見学をきっかけに移住した。 ・高齢者となって都心部で生活続けることに限界を感じていた。（年金生活で都心部の家賃は負担） ・新聞、テレビで垂水市の移住についての情報が流れたことがきっかけとなった。 ・見学に来た際に、行政職員が親身に対応してくれた。 ・元々の出身地で、Uターンを決めた。
移住後に感じた垂水市の長所	■自然条件、立地条件が良いとする意見が多い。 ・温泉がある。（温泉に入るために移住したようなもの） ・食べ物が美味しい（ブランド力の高い食材が豊富。） ・地域の人が親切で、助け合いがある。治安もよい。 ・まちがコンパクトで便利。 ・鹿児島市が近くて便利。九州新幹線ができると関西方面も近くなる。
その他	■現況を容認したうえで、都市部との差に言及する回答もあった。 ・ネットショッピングにより不便さはないが、ウィンドウショッピング等ができないことは残念。 ・学習塾が十分ではなく、通うためには近郊の都市まで行く必要がある。 ・一番の課題は仕事探し。移住当初は、移住前との賃金格差に悩んだ。

5. まとめ

インタビュー結果から、垂水市への移住において重要と考えられる事項として、以下のとおり考察する。

- ・温暖な気候、豊かな自然、豊富な食材、温泉の存在等の垂水市の自然条件に満足している傾向があり、全体として満足度が高い。
- ・鹿児島市などの大都市に近接しており、垂水市内にもスーパーや病院があり市街地がコンパクトにまとまっている。また、渋滞が大都市圏と比べ少ないこと等から、生活利便性への満足度が高い。

垂水市は、温暖な気候や温泉など固有の地域資源を有していることから、この地域資源を活かした移住支援の取り組みが有効に展開されており、また移住者も地域資源から得られる環境への満足度が高いと言える。また、近年の子育て支援に関連する施策が、子育て世代の移住支援にもつながっており、今後の若年層の移住にも注目したい。

謝辞

本研究の実施にあたっては、鹿児島県垂水市役所企画課に全面的なご協力を頂いた。また、垂水市に移住された7名の方にはインタビューに快くご協力頂いた。ここに記し感謝をあらわします。